

地域と子どもたちの将来を見据えた学びの推進について

南丹市教育委員会 教育長 木村 義二

皆さま方にはこの間、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止対策として、健康と安全を第一に考えた教育行政の取り組みに關しまして多大なるご理解とご協力を賜っておりますことに深い感謝を申し上げます。

南丹市教育委員会では、将来にわたって地域社会の担い手となる子どもたちを地域社会の皆さまとともに育て、地域の教育力を高めるため、さらなる教育活動の推進に努力して参る所存であります。

本年度は、学校・家庭・地域がひとつとなって取り組む「地域道徳」により、道徳教育を通じてよりよい社会を実現するという目標

を共有し、三者が連携して地域全体で道徳性を高めるとともに、子どもたちが読書に親しみ、生涯にわたって心豊かに学び続ける力を育むため、子ども自身が読書の楽しさを知るきっかけを作り、その機会を増やし、読書体験を豊かにするよう、発達段階に応じた取り組みを展開して参ります。

また、南丹市はICTの整備・活用について全国的にも高い評価をいただいております。今後も積極的にタブレット端末を活用し、子どもたちの学力向上に向けた取り組みを進めて参りますので、より一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

◇南丹市教育委員会の取り組みと事業展開について◇

○地域道徳の取り組みについて

南丹市の子どもたちが道徳性を身に付けることは、これからの社会を生き抜き、より良い人間関係を基盤とした社会生活を送っていくためにとても重要です。

南丹市が進めている「地域道徳」は、子どもたちが道徳性を身に付けていくための道徳教育や道徳的価値を学ぶ場に、学校だけでなく保護者や地域を巻き込み、家庭や地域とともに子どもたちの道徳性を醸成するものです。

また、共に道徳的価値を語り合うことは、地域の方々のつながりをも深め、地域の活性化にもつながるものと考えています。



○読書活動活性化に向けた取り組みについて

南丹市では、全ての子どもたちが本に親しみ、意欲的に読書ができる環境を目指しています。そこで、今年度から南丹市内の小学校3年生から中学1年生までの児童生徒を対象として「読書モリモリカード」という名称で読書記録に取り組んでいます。

これは、読書記録を残すことで自らの読書の歩みを振り返り、次の読書への意欲につなぐこと、おすすめ度を記録して友人への図書紹介につなげ共に読書に対する意欲を高めること、さらに読書を振り返ることで本の内容を思い返し、自分の内的成長を促すことをねらいとして実施しています。



◇各幼稚園・小学校・中学校における特色ある取り組み◇

園部 幼稚園



豊かな心を育むために ～体験を通して～

5歳児が町内のお店に野菜の苗を買に行きました。植えたい野菜や種を選び、レジに並んでお金を払いました。お金を大切に扱ったり、他のお客さんのことも考えて行動したり、店員さんや取り取りをしたりと、とても貴重な経験となりました。野菜の苗と種は園に持ち帰り、大切に育てています。

その他にも4・5歳児が毎年、口人若者会・乙女の会の方々にお世話になり、芋の苗植えや収穫体験をさせていただいています。また、地域の方をゲストティーチャーに迎え、筆遊びやサッカー教室など様々な体験を通し、地域の方々に親しみの気持ちをもつと共に、心豊かにたくましく生きる力を育む取組を進めています。

園部 中央幼稚園



トマト名人との出会いから大切なものをいただいて

幼児学園から一歩足を踏み出すと、住吉神社・帝釈天・メモリアル広場など豊かな自然環境が子どもたちを迎えてくれます。歩くことを楽しみ、発見や不思議さ、感動など様々な気分が味わえる散歩道。

先日、5歳児が通称「トマト名人」のハウスでトマト苗植えを体験。1回目は難しく「苗が折れてしまった…」と落ち込む子どもたちにトマト名人は「まだこれだけあるから大丈夫！もう一回やってみよう」と声をかけ、2回目の成功体験へと導いてくださいました。園外に出て出会う地域の方との触れ合いは、園内だけでは経験できない心の栄養（自己肯定感など）をいただけます。地域の中で育てていただいていることに感謝しています。

園部 小学校



「ミニ熟議」 「ゲストティーチャーを招いて」

学校運営協議会が盛り上がりを見せています。いつも議論が白熱し、予定時間を大幅に超えてしまうこともしばしば…。たくさんのアイデアがあふれでできます。

「野菜作り名人」「蛍の話」「南丹市の特産品」「着衣泳」「車いす体験」「伝統芸能体験」「戦争体験講話」etc.すでに20以上の授業が計画・実施されています。また、地域・保護者の方々に呼びかけ、少しずつ地域見守り隊を広げています。これらの活動のねらいを共有し、充実させることで地域道徳も活性化させていきます。協議会は「地域とともにある学校」を目指して、今日も楽しく活動しています。

園部 第二小学校



「ひろがれ青空 音楽会」では、最高学年として発表のラストを締めくくる素晴らしい演奏ができました。

今年も6年生の「和太鼓」学習が始まりました。卒業生から受け継いだ「和太鼓にかける想い」を胸に、太鼓を打つだけでなく、聴いている人の心を打つ太鼓となるように学習を積み重ねています。

今年度は「Do My Best!」を合言葉に、互いに励まし合い、心をつなぐことで仲間とのつながりを深めています。

下級生は、和太鼓学習に取り組む姿やその演奏から6年生への憧れをもちます。そんな下級生との関わりを通して、6年生はさらに最上級生としての自信を深めます。

こうして6年生の「和太鼓」は、園部第二小学校の伝統的な取組として引き継がれています。

八木西小学校



保護者や地域の方が子どもたちと一緒に考え・議論する「みんなで どうとく」

八木西小学校では、保護者や地域の方と共に連携して地域道徳に取り組んでいます。今年度は、PTA 本部の方や地域の方と城山登山を実施しました。城山を登った児童から「地域の方や全校のみんなで山を登れて最高です。」と声が聞かれました。

また、おうちの方や地域の方に参加していただき、考え、議論する道徳「みんなで どうとく」に取り組みました。「久しぶりに道徳の授業を体験し、大人も深く考える時間となりました。」というお声をいただき、大人も子どもも共に交流することで、様々な道徳的価値にふれる時間となりました。地域道徳を通して、八木西の町を愛してやまない「八木西 大好き！」の気持ちを広げていきます。

八木東小学校



1年生の自己紹介！6年生の優しい関わりのおかげで、みんな発表することができました。

人権教育を基盤とする本校では、温かい人間関係や児童の主体性を育成する集団での活動を重視しています。

6年生が計画し運営した「1年生歓迎集会」は、オンラインで各教室をつなぎ、1年生が自己紹介をしたり、各教室をまわって、じゃんけんゲームや温かいメッセージの交流をしたりと、創意工夫により、全校生の笑顔が輝く時間となりました。また企画や進行を担った6年生にとっては1年生の喜ぶ顔を見て、自分たちが達成感を得たよき経験となりました。

「児童発」「自分たちで考え、創り上げる」取組を今後も大切にしたいと考えています。

殿田小学校



本物の能に触れる貴重な機会となりました。

殿田小学校の「ふるさと学習」。3年生では今年度「能」について学習します。その先駆けとして、このたび公益財団法人梅若会の皆様等のご協力により、「本物に触れる能の世界」鑑賞会を開催しました。

楽器体験では、児童が笛や小鼓などに触れる機会もあり、会場のかけ声に合わせて演奏しました。メインの『「羽衣」和合之舞』は、会場全体が舞や謡などに酔いしれました。終了後の高学年児童による御礼では、過去に学習した「鶴亀」を披露し、大きな拍手をいただきました。今後地域ゆかりの梅若家や能について学習を深め、また、実際に舞や謡などにも触れていきます。

胡麻郷小学校



「つながるんジャー」の呼びかけで集まった草引きボランティア

「全校が、家庭が、地域が生き生きにこにこつながり合えるように」という願いから本校児童会に『いきいきにこにこつながるんジャー』が生まれました。具体的な取組として、『あつまれボランティア（通称あつボラ）』が始まり、校内ボランティア活動を通して全校児童がより良くつながり合いながら『ええ学校』づくりを進めています。また、全校で「ふるさと（嵐）」や「ふるさと（童謡）」の歌練習にも取り組んでいます。今後は、ボランティア活動や歌を通して保護者や地域の方々とのつながりを深め、目指す児童像である「ふるさと胡麻に愛着をもって自ら学ぼうとする胡麻っ子」の育成を進めていきます。

美山小学校



原生林にたたずむ大栃と美山っ子

4年生では、校区にある「芦生原生林」を活動の舞台にして、宿泊体験学習「グリーンワールド」を行いました。事前学習を含め、活動計画を地域と協働的に組み立てました。

1日目は、由良川の源流域である杉尾峠付近から長治谷にかけてトレッキングを行い、2日はトロッコ道を散策した後、飯ごう炊さんを行いました。

美山に暮らしていても、なかなか触れることができない貴重な自然を目の当たりにして、子どもたちは興味津々でした。

園部中学校



環境美化部「花植え活動」の様子

本校では、校内環境を整えるために、生徒会環境美化部による「花植え活動」を毎年春と秋の年2回行っています。地域の方や校区にあるお花屋さん、農芸高等学校の先生方を講師としてお招きし、活動しています。

今年度は、農芸高等学校の先生から花の説明や植え方、水のやり方、元気に咲かせ続ける方法などについて具体的に教わった後、プランターにジニアとペゴニアの花を植えました。水やりは、環境美化部員が交代で行います。

色とりどりの花でいっぱいになったプランターは校門横に設置し、登下校する園部中学校生徒はもとより、近くを通行される地域の方々も癒されています。

八木中学校



「ウクライナ緊急募金」の様子

生徒会は今年2月から続くウクライナでの緊張状態と、長年にわたる紛争で750万人の子どもたちの命と生活が脅威に直面している事実を知り、5月24日から6日間、校門にて募金活動を実施しました。

この活動は政治的な立場を示す行動ではないことを理解し、戦争によって避難している子どもを支援している【ユニセフ】の活動に賛同し、協力するという形で実現しました。保護者、地域の方にも協力いただき、感謝と同時に取組の成果を感じていました。社会情勢に高い関心を持ち、人権の尊重と平和を願う心を、今後も大切に育てたいと考えております。

殿田中学校

殿中行動宣言

- ①ふるさとの良いところを見つけ、大切にします
- ②互いを高め、尊重します
- ③自分の役割を自覚し、責任をもって行動します
- ④自分からあいさつをします
- ⑤規律を守り、礼儀正しくします
- ⑥何事にも積極的に挑戦します
- ⑦地域の方や仲間感謝の気持ちを持って接します



生徒集会の様子

昨年度の生徒会が中心となって作成した「殿中行動宣言」。この宣言が示す姿をめざし、今年度の殿田中学校生徒会は意欲的に活動をしています。

4月の生徒集会では、「殿中あいさつの仕方レベル」を生徒会本部役員が段階ごとに実演し、自分からあいさつができる殿中生を実現するためのアクションをおこしました。

数日後、地域の方から「殿中生から、大変気持ちのよいあいさつが返ってきました。お陰で1日元気に田植えをすることができました！」という嬉しい報告をいただきました。

これからも「殿中行動宣言」を大切に、地域の方から誇りに思ってもらえるような殿中生を目指します！

美山中学校



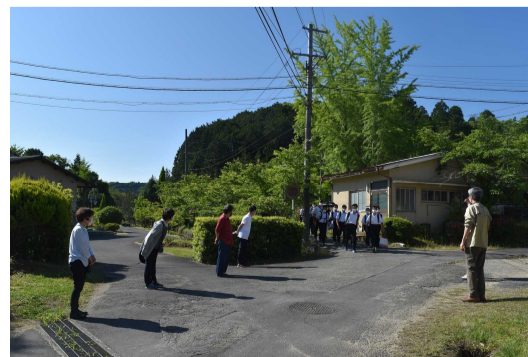
直木賞作家 今村翔吾さんを招いて

6月2日に『塞王の楯』で第166回直木賞を受賞された作家の今村翔吾さんを招いて、「アンビシャスタイム」を開催しました。

今村さんは自身の「本との出会い」や「作家を志すきっかけ」、「夢の実現への転機」などを、ユーモアを交えて語っていただきました。

生徒にとって、広い世界で活躍される今村翔吾さんの世界観に触れ、夢の実現の先駆者としての心の在り方や努力、作家としての楽しさや苦悩などの話を聴くことで、読書への興味・関心をかきたて、人生の先輩からの学びや励ましを得る貴重な体験になりました。

桜が丘中学校



一日のスタートは、爽やかな「あいさつ」から

昨年度より、本校においても「地域コーディネーター」「学校運営協議会委員」の皆様方とあいさつ運動を行っています。昨年度は不定期で行っていましたが、今年度より月1回のペースで実施しています。また、参加の枠を広げて「南丹地区更生保護女性会」の皆様方にも参加を依頼し実施しています。地域の方々にも、これまで以上に桜が丘中学校を知っていただけるよう、あいさつの輪を広げていきたいと考えています。

朝から大きな声であいさつが交わされ、気持ちの良い爽やかな一日のスタートを切ることができています。